

book

小副川 高朗

不朽の名作ミステリ
最後まで謎が続く
驚愕のサスペンス



『そして誰もいなくなった』

アガサ・クリスティー／著
青木久恵／訳
早川書房



『ぜつぼうの濁点』

原田宗典／作
柚木沙弥郎／絵
教育画劇

おそらく、世界で最も有名なミステリといっても過言ではないはず。

脱出不可能の孤島に集められた10名の男女が、一人、また一人と殺害されていく…。

推理小説が好きな人なら、「脱出不可能な環境」で「童謡に見立てられ」た連続殺人事件が起きるこの作品に、たまたまなく興奮するのではないのでしょうか。もちろん私もその一人でした。

70年以上前の作品なのに、今

読んでも十分面白いのは、『凄い』の一言。

この作品に影響されたミステリもたくさんありますので、読んでおくと他のミステリ作品をさらに面白く読むことができます。本格ミステリの入門書として、ぜひ一読を！



おそえがわ・たかお ◆結婚を機に武雄市に移住してはや3年。推理小説とホラー映画と猫をこよなく愛する35歳。優しい妻と3匹の可愛い猫たちと一緒に楽しく暮らしています。

ひらがなの国の道ばたに落ちていた「シ」。それは「せ」の「せ」の字に ついてきた濁点でした。絶望感の中で「し」の沼の中に落ちていく絶望の濁点が希望の濁点に生まれ変わります。

ひらがなや言葉で表された絵本ですが、じっくり読むと内容はとても深く、絵本が子供だけのものではなく、幅広い年齢の方が楽しむことができるというところを実感できる一冊です。

岸本奈保子 ◆おはなし会たけお所属。てんじん文庫のメンバーとして絵本の読み聞かせを行っています。生まれて初めて目にする本が絵本。素敵な絵本との出会いがあることを願っています。